令和３年度　江東区立浅間竪川小学校　経営計画

校長　　櫛田　光治

Ⅰ　教 育 目 標

○　考える子
○　思いやりのある子
○　元気な子

Ⅱ　経 営 方 針

目指す学校像	○夢を育み　笑顔あふれる学校 未来に生きる力が育つ学校 家庭、地域が信頼し、誇りに思う安心・安全な学校
目指す児童像	○　自ら考え　すすんで学ぶ児童 ○　自他を大切にする　思いやりのある児童 ○　心身ともに健康で　たくましく生きる児童
目指す教師像	○　児童一人一人を大切にし　心から愛情を注ぐ教師 ○　志を高く自己研鑽に励み　互いに高め合う教師 ○　児童・家庭・地域から　専門職として厚く信頼される教師
経 営 理 念	本校の歴史と伝統を継承しつつ、10 年後、20 年後の次代を見据えた新しい浅間竪川小学校を目指し、特色ある学校教育を創成する。その中心はこどもたちと支える教師の成長である。 ○チェンジ…これまでの教育の良さを生かしつつ、次代に向けて新しく変えていく。 ○チャレンジ…常にチャレンジ精神をもち、新しいことに挑戦し、全教職員が一丸となって取り組める経営をする。 ○スピード…こども、保護者、地域等　様々な状況や変化、要望等に組織的にスピーディに対応する経営を行う。 ○成果の見える経営…実践の結果を目に見える「カタチ」や「数値」で表わす。また、評価を大切にする。 ○地域に開かれた学校として、保護者や地域の人材を生かし、連携した経営を行う。 ○活力ある教員組織「チーム浅竪」を作り、こどもも教師も夢を叶える学校を目指す。

Ⅲ　経 営 目 標

重点領域１	豊かな心の育成
中期経営目標	礼儀正しく、思いやりの心をもって人と関わることができる児童の育成
短期経営目標	・児童相互、教員と児童との良好な関係による温かい学級づくりを進める。 ・自らすすんであいさつができる児童を育成する。 ・相手を思いやり、だれにでもやさしく接する児童を育成する。

項目	努力指標（教師側）	成果指標（こども側）
1	・児童に愛情をもって接し、一人一人を大切にした温かい学級づくりを目指す。	・「学校が好き、学級が楽しい」と実感する児童を 90%以上にする。
2	・児童が主体的に取り組む「挨拶」に関する取組を年３回実施し、自らあいさつできる児童を育成する。	・校内や登校時に出会う人々（保護者、地域の方、教職員）にすすんであいさつできる児童を90%以上にする。
3	・全校体制で理解・共有し、礼儀正しくきまりや約束事を守って、自律ある学校生活を送る児童を育成する。	・きまりや約束事を常に意識し、礼儀正しく規律ある生活ができる児童を90%以上にする。
4	・人権教育・道徳教育において自他を尊重する指導の充実を図るとともに、いじめ問題の未然防止・早期解決に努める。	・学校生活に関する調査において、「いじめは絶対にいけない」と答える児童　100%を維持する。

重点領域２	確かな学力の向上	
中期経営目標	基礎・基本の確実な定着と児童が「分かる」「できる」と実感できる授業実践	
短期経営目標	・児童の授業力向上及び「学びスタンダード・ネクストステージ」の確実な定着を図り、学習指導要領の趣旨を捉えた授業を目指す。 ・「主体的・対話的で深い学び」の授業を推進し、タブレット端末や電子黒板等のＩＣＴ機器を活用しながら、自ら学ぶこどもの育成を目指す。 ・「ユニバーサルデザイン」の授業に努め、個に応じた指導を充実する。	
項目	努力指標（教師側）	成果指標（こども側）
1	・「こうとう学びスタンダード・ネクストステージ」の指導を徹底し授業規律や学習習慣、基礎基本の学力の定着を図る。	・「学びスタンダード定着度調査」等において、全項目 80%以上の達成率を目指す。
2	・学習のめあてや見通しが明確で、「主体的・対話的で深い学び」を目指す授業を実践する。	・授業評価で「目当てをもってすすんで取り組んだ」と評価する児童を 90%以上にする。
3	・指導方法の工夫・改善を図り、児童が「分かる・できる」と実感できる授業を実践する。	・授業評価で「授業が分かりやすい」と評価する児童を 80%以上にする。
4	・ＩＣＴ機器を活用した授業に取り組むと共に、家庭と連携した学習指導の充実を進める。	・ＩＣＴ機器を活用した家庭学習に取り組む児童を 80%にする。

重点領域３	体力向上及び健康の保持・増進	
中期経営目標	体力・運動能力を高める指導の充実させることにより、生涯にわたり運動に親しもうとする児童を育成する。	
短期経営目標	・校内研究及び体力スタンダードの徹底を図り、体育の授業を改善・充実する。 ・東京都統一体力テスト（新体力テスト）の全種目で、都及び区平均を上回る。 ・校内外の安全教育の徹底を図り、安心・安全な学校づくりを進める。	
項目	努力指標（教師側）	成果指標（こども側）
1	・学び SD 講師を活用して体育科の授業改善を図り、体力向上を図る。	・「体躯の授業や運動が好き」と答える児童を 80%以上にする。
2	・全国平均を新体力テストの校内目標値に設定し、体力・運動能力の向上を図る。	・体力アップカードを活用し自分の目標を達成できた児童を 80%以上にする。
3	・「夢の教室」、国際理解、障害者理解等の体験活動を取り入れ、オリ・パラ教育を推進する。	・専門家との交流等により、オリ・パラへの興味・関心をもつ児童を９０%以上にする。
4	・感染症や災害等を想定した安全教育の改善、充実を図り、地域・ＰＴＡとの連携による学校安全管理体制を強化する。	・感染症ガイドラインに沿った「新しい学校生活様式」に進んで取り組み、健康保持・増進に注意する児童を 90%以上にする。

重点領域４	地域に根ざす学校づくり	
中期経営目標	家庭、地域に開かれ、信頼される学校づくり	
短期経営目標	・地域に親しみ、地域から学び、地域に貢献しようとする態度を育てる。 ・地域の教育力の活用や地域行事への参加を通して、地域に根ざす教育活動を進める。 ・家庭・地域に教育活動を積極的に情報発信し、開かれた学校づくりを推進する。	
項目	努力指標（教師側）	成果指標（こども側）
1	・教科等の特性や学年の発達段階等に応じて、意図的計画的に地域学習を取り入れる。	・学校や自分の住む街に対して肯定的に捉える児童を 90%以上にする。
2	・地域に根ざす学校という自覚のもとに、地域人材活用、保幼小中連携による教育活動を進めるとともに、児童に地域行事への参加を促す。	・「地域の行事等に参加した」児童を８０%にする。
3	・動画配信や教材配信等を行い、ＨＰ及びタブレット端末を学習ツールとして活用する。	・学校関係者評価、保護者アンケートの学校の情報発信に係る肯定的評価を 80%以上にする。
4	・学校からの情報発信の基盤として、学校・学年だより、学校掲示板を工夫・改善する。	